

グリム童話と社会情勢の関係

岩崎 武司 岡田 雄司 河田 莉奈 澤 味加 坪井 美優 西川 歩香

要旨

長年世界中で読まれているグリム童話は、現在は親しみやすいものであるが、原作は残酷な描写が含まれるものであった。グリム童話の作成時期や方法について調べたところ、童話の原作の一部とその当時の社会情勢との関連性を見出すことができた。特に結果が顕著に出た『ヘンゼルとグレーテル』においては当時の飢饉や魔女狩りが大きく関係していると分かった。

キーワード：グリム童話、飢饉、魔女狩り、ヘンゼルとグレーテル

1 序論

映画『スノーホワイト』を見て、白雪姫が残酷な話であることを知った。子供向けの童話であるにもかかわらず、残酷な描写が含まれていることに疑問をもち、本研究に至った。残酷な描写は社会情勢と関係しているという仮説を立て、グリム童話制作以前の出来事と原作内の本文の比較によって、この疑問を明らかにしようと考えた。

2 予備研究

(1) グリム童話について

グリム童話は、グリム兄弟がはじめから制作したフィクションではなく、ドイツの人々に伝わるメルヘンを聞いたり、ドイツに残る書物から集めたりしたケースが多いことがわかった。そのため収集した話の時代背景には、初版が発行された19世紀以前の出来事が関係しているのではないかと考えられる。

(2) 『ヘンゼルとグレーテル』あらすじ

幼い兄妹のヘンゼルとグレーテルは、飢饉による口減らしのため両親に捨てられ、森の奥にあるお菓子の家に辿り着く。空腹のためお菓子を食べてしまった兄妹は、そこで出会った魔女に食べられそうなる。しかしそこで機転を利かせたグレーテルが魔女を焼き殺し、無事に家に帰る。その後兄妹は父親と三人で、不自由なく幸せに暮らす。

3 研究内容

(1) 年代の確定

14世紀に、ヨーロッパで天候不順とそれに伴う飢饉が頻発。また、宗教改革の影響も15世紀中ごろにはドイツは荒廃。殺人や放火、物資や食糧の奪略を行うのも常であったという。このことは、原作中の以下の記述内容と一致する。
「ある年、その国にたいへんな飢饉があったときには、日々のパンすら手に入らなくなってしまいました。」

→ヘンゼルとグレーテルの時代背景は14～16世紀

(2) 魔女狩りについて

14世紀以降、頻発する飢饉や黒死病の流行などの社会的不安により、ユダヤ教徒やハンセン病患者への迫害が始まった。後に、特定の集団からの異端とみなされた人々がすべて魔女と考えられるようになり、無実の人々が拷問されたり、処刑されたりした。拷問や処刑にはさまざまな方法が用いられたが、主に行われていた処刑方法は火あぶり、体が完全に灰

1 組 7 班

になるまで焼かれたという。

このことは以下の記述内容と一致する。

「魔女は、神様のばちがあたって、否も応もなくむごたらしく焼け死んでしまいました。」
また、当時の魔女は神の存在を否定し悪魔に身を捧げる、子供の脂肪を抽出して貪り食べる、子供の死体から粉薬を作るなどとされていた。このことは原作の以下の記述内容と一致する
「だれか子どもが自分の手にはいると、ばあさんは、それを殺して、ぐつぐつ煮て、むしゃむしゃ食べるのです。」

(魔女がグレーテルに向って)『にいちやんに、あぶらみをつけてやるのだよ。あぶらがのったら、おばあさんが食べちゃうのさ。』

→ヘンゼルとグレーテルの魔女は、当時の魔女のイメージ

4 結論

ヘンゼルとグレーテルという童話は、14～16世紀のドイツの社会情勢と大きくかかわっていることが分かった。当時のドイツは飢饉などの社会的不安の矛先を魔女狩りに向けており、そのことを正当化するためにメルヘンの中で魔女のイメージを固定し、子供たちに聞かせていたと考えられる。

ハッピーエンドが多いグリム童話ではあるが、その裏側には様々な歴史的背景が隠されていることもある。それを知って読むことで、読みなれた童話からも、新たな発見ができるかもしれない。

* 謝辞

本研究に当たっては、アドバイザーとして熱心にご指導いただいた岡山県立倉敷天城高等学校の武田陽子先生に感謝いたします。

【参考文献】

- ・黒川正剛：図説魔女狩り，河出書房新社，p. 36, 90 (2011)
- ・金田鬼一：完訳グリム童話集 1，出波文庫，p156, 165, 166, 169
- ・小澤俊夫，田中安男：グリム幻想紀行童話のふるさとを訪ねて，株式会社求龍堂，p. 22 (1994)
- ・浜島書店編集部：アカデミア世界史，浜島書店，p154, 173, (2009)